

人間型ロボットと未来社会



大阪大学基礎工学研究科 教授

いしぐろ ひろし
石黒 浩

【略歴】

1991年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了。工学博士。その後、京都大学情報学研究科助教授、大阪大学工学研究科教授等を経て、2009年より大阪大学基礎工学研究科教授。ATR石黒浩特別研究所客員所長(ATRフェロー)。2017年から大阪大学荣誉教授。専門は、ロボット学、アンドロイドサイエンス、センサネットワーク等。2011年大阪文化賞受賞。2015年文部科学大臣表彰受賞およびシェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム知識賞受賞。

従来ロボット工学は、ナビゲーションとマニピュレーションという2つの分野から構成されてきた。これらの分野では、工場などで働くことに特化したロボットが開発されてきた。石黒は他国の研究者と協力し、インタラクションという新しい分野を立ち上げた。その研究はヒューマンロボットインタラクションと呼ばれ、日常生活で人間と関わるロボットの開発を目指している。

加えて、石黒は、世界で始めて、アンドロイドと呼ばれる人間に酷似したロボットを開発した。

この講演で石黒は、人と関わり、人と対話するロボットやアンドロイドを多数紹介するとともに、その技術や科学的問題を議論する。特に、意図や欲求、経験、感情、意識といったロボットやアンドロイドの問題について議論するとともに、それらがどのように我々の社会に影響を与えるかを議論する。